

税金は社会のエネルギー

宮崎市立大塚中学校3年 古谷 明希歩

なぜ、税金に対してマイナスなイメージを持つ人がいるのでしょうか。私も、前までは、

「税金ってなぜ払う必要があるのだろう」と、あまり良くない感情を持っていました。消費税や所得税、住民税などのように、生活する上でのほとんどのことに絡んでは、お金を「払わされて」しまうからです。

しかし、税金について詳しく調べると、これは、身近な場所で想像以上に活躍しているということに気付きました。

例えば、私が小学生の頃です。通学路を歩いていると、アスファルトの一部がへこんで穴が空いたようになっており、危うく転びそうになったことがありました。内心ヒヤリとした私は、次の日から別の道を通るようにしていました。しかし数週間後、久々にその道を通ろうとすると、穴はきれいに埋められ、ぴかぴかに舗装されていました。

「誰か親切な人が修理したのかな」

なんて考えていましたが、あの時に道を修理したことによってかかる費用は税金から出されていたそうです。

中でも一番驚いたのは、毎日のように使う教科書も、義務教育の間は、全て税金で賄われている、ということです。確かに、全ての教科書の裏には

「これからの日本を担う皆さんへの期待をこめて、税金によって無償で支給されています。」

と書かれていました。教科書使用歴九年目にして、初めてこの文に実感がわきました。

私は今まで、税金のありがたみを全く理解していなかったことに気付きました。警察も消防も学校も、全て税金によってまわっています。もし、日本から税金が消えたら、と思うとゾッとします。今の豊かで安心安全な生活は、税金の力で保たれていると感じました。

また私は「税金は払うもの」と思っていたのですが、それも間違いだと知りました。払うには自分に、選択する権利が多少なりとありますが「納める」という表現には、絶対・必ずという意味があります。税金は払うものではなく「納める」ものなのです。

この日本には一億人以上の人々が暮らしています。確かに税金を納めても、一人一人への実感は小さくなるかもしれません。しかし、私達がより良く豊かに生きるためには、絶対に税金が不可欠なものなのだと、私は声を大にして訴えたいです。

それに、自分が納めた税金が、社会のどこかで息づき、苦しい思いをしている人を助けているかも知れない。そう考えると、マイナスどころかプラスなイメージさえも持てる気がします。

税金とは、納めることでこの社会をより良く変えられるものだと、私は信じています。